

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤのラーバが見られました

1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは10月5日に野辺地沖で0.8個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) サンカクフジツボ (通称：アカガキ)

ラーバは10月3日に奥内沖で0.8個体/m³、10月5日に久栗坂沖で1.7個体/m³見られました(表1、図3)。

(3) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シュリ)

ラーバは10月3日に奥内沖で0.8個体/m³、10月5日に久栗坂沖で2.8個体/m³、川内沖で0.8個体/m³見られました(表1、図4)。

(4) その他

アミクサの小枝やキヌマトイガイのラーバ、オベリア類のクラゲは見られていません(表1)。

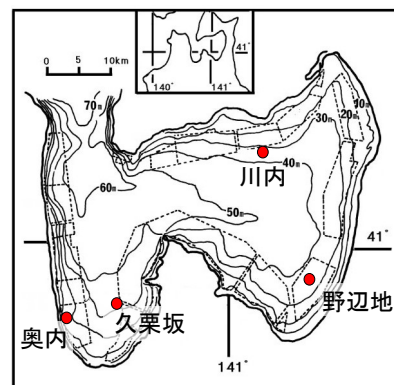


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

ユウレイボヤは生息する水温が20℃

以下に低下すると産卵します。現在、陸奥湾内の中層水温は21℃前後になったので、これからラーバの本格的な出現と付着が始まるものと思われます。

未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイのラーバは4～7月まで出現していたので、稚貝および耳吊り貝に小さい個体が多く見られる可能性があります。が、これまでの調査で秋から冬生れのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

サンカクフジツボの付着直前のラーバが少し見られますが、付着はほぼ終了です。殻長1mm未満の小さい個体は稚貝分散時に選別機を用いることで大量に落ちるので、分散作業を早めに進めましょう。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	単位: 個体/m ³	
							オベリア類クラゲ	アミクサ小枝
奥内沖	R3.10.3	0.0	0.8	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0
久栗坂沖	R3.10.5	0.0	0.0	0.0	2.8	1.7	0.0	0.0
野辺地沖	R3.10.5	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	R3.10.5	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

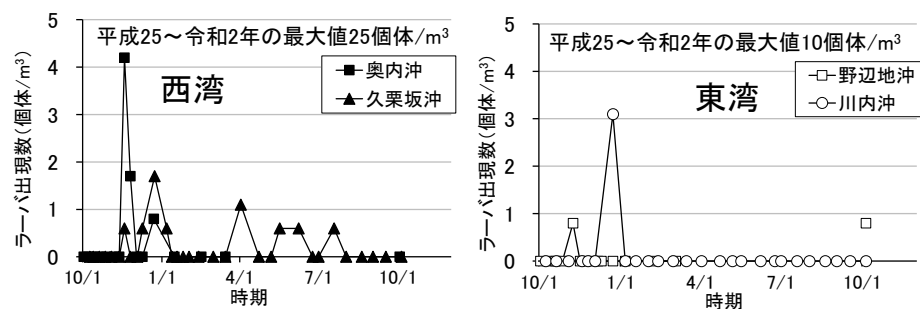


図2 ユウレイボヤ ラーバ 出現数の推移 (令和2年10月～令和3年10月)

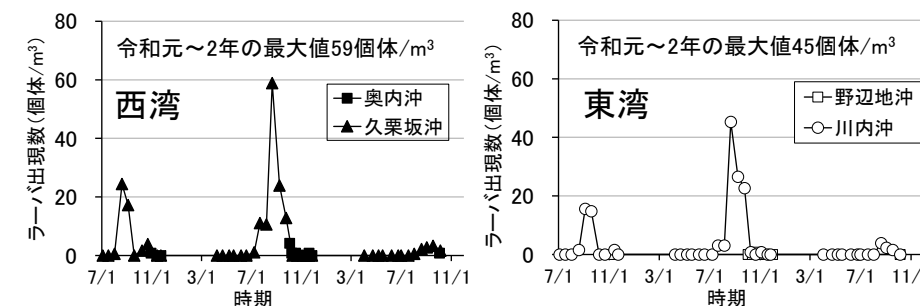


図3 サンカクフジツボ ラーバ 出現数の推移 (令和元年7月～令和3年10月)

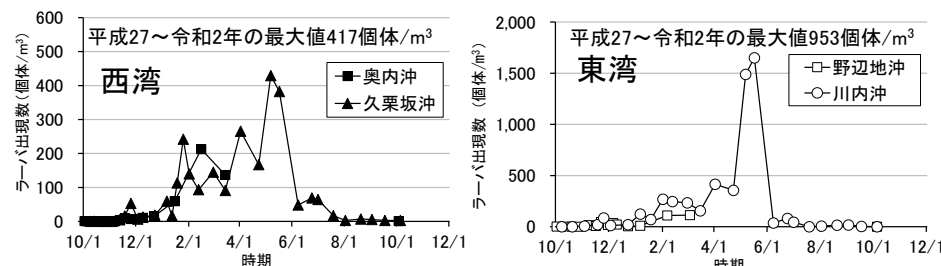


図4 ムラサキイガイ ラーバ 出現数の推移 (令和2年10月～令和3年10月)

